

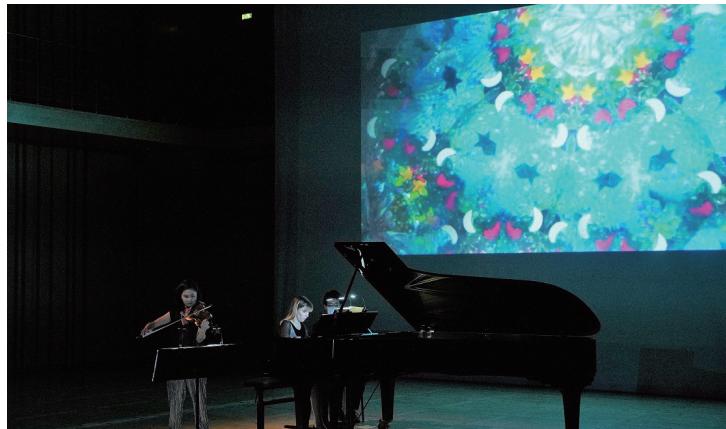
2020年  
秋  
9月～10月

# パリ日本文化会館だより

ピンクリボン運動で  
ピンク紫になった  
エッフェル塔



## Synesthesia : 庄司紗矢香 (バイオリン) × Suzana Bartal (ピアノ)



「すばらしい芸術に触ることで人の心は動かされ、生きる意欲がわいてきます。」そのような感想が聞かれたのは9月、ようやく開館できて舞台芸術としては最初の事業となる「Synesthesia : 庄司紗矢香 (バイオリン) × Suzana Bartal (ピアノ)」のデュオコンサートにおいてでした。コロナウィルス感染防止対策のため休憩なしのコンサートで、お二人にはブラームスとバルトークのソナタを演奏いただきました。後半のバルトークでは、庄司さんご自身が創作した映像作品のプロジェクトを伴う演奏を披露し、お二人の演奏と映像との息の合った共演が観客を魅了しました。

その力強く繊細で情緒豊かな演奏に、ウィルス感染防止のため通常の半分に絞った客席に満員となった観衆から拍手はなりやみませんでした。半年ぶりの当館での公演事業は、コロナ禍の困難な中でも感染防止策を万全にして行うことで、当館の存在意義を高めた事業と言えます。

## 食文化紹介



食文化紹介では、トライアフランス社と共に10月10日に「羊羹デモンストレーション」を実施しました。当館の厨房で実施し、その様子をライブでオンラインでも放映し、パリ以外の地方の方にもご覧いただきました。オンラインで視聴いただいたお客様からも多数の質問をいただきなど、現場と変わらない熱を感じることができ、新たな発信方法に手ごたえを感じています。

## 「美の秘密-浮世絵に見る江戸時代の化粧と髪型」展 Secrets de Beauté

10月6日には「美の秘密-浮世絵に見る江戸時代の化粧と髪型」展のオープニングを無事に迎えました。ご覧になった方々からは、「浮世絵の隣に、描かれている道具が展示されており、生き生きと当時の様子が想像できる」「江戸時代の化粧や髪型の中にも、現代につながっている要素があることが感じられた」「日本の作品だが、展示の仕方・空間構成がフランス的で、日本とフランスの融合した感じが日本文化会館ならではだと思った」等の感想をいただき、よい感触を得ております。フランスのテレビやルモンド紙やリベラシオン紙などの主要紙、雑誌等メディアに多数取り上げられることになりました。

本展は友の会の皆様には無料でご鑑賞いただけます。日本からいらっしゃることは当分難しいとは存じますが、フランスにいらっしゃる関係者の皆様のご来館をお待ちしております。



当館活動が再開後、順調に乗ってきたと思う間もなく、フランスの新型コロナウィルス感染者数が1日5万人を超え、10月29日深夜より、全般的な外出禁止令が出され、当館は臨時閉館となってしまいました。

まだまだ例年通りの活動ができない状況ではありますが、当館は引き続き、新型コロナウィルスに対応した新しい取り組みをしてまいります。この状況を契機とした社会の変化の中で、今後我々はどうやって生きていくべきなのか?この危機により見えてきた課題について考える、講演会やインタビューなどの実施も計画しています。世の中が大きく変わろうとしている時に、文化を切り口に日仏の視点から、新たな社会、価値観を模索します。